

映像教材情報データベース"JEMISS"の情報検索実習への適用

著者名(日)	菊川 健, 川淵 明美, 小川 亮
雑誌名	放送教育開発センター研究紀要
巻	4
ページ	127-146
発行年	1990
URL	http://id.nii.ac.jp/1146/00001197/

映像教材情報データベース“JEMISS” の情報検索実習への適用

菊川 健¹⁾、川淵 明美²⁾、小川 亮³⁾

Practical Use of JEMISS on Information Education

Takeshi Kikukawa, Akemi Kawafuchi, Ryo Ogawa

Abstract

In the National Institute of Multimedia Education, a database system for audio-visual resources has been developed in order to effectively utilize available resources and data. JEMISS (Japan Educational Media Information Service System) is a bibliographical database for domestic educational media such as 16 mm films, video and slide materials, which involves statement of copyrights. JEMISS has been offered to universities and research institutions through the Science Information Computer Network System. On the other hand, 'Educational method and technology, including information equipments and application of instructional materials' has been newly introduced, which covers instructional design, educational media, information equipments such as computers. Therefore we have discussed practical use of JEMISS on information education in universities of teacher education. Then we have developed an instructional program to practice information retrieval and have confirmed that the program is of an advantage to the students.

キーワード

データベース 情報検索 情報教育 映像教材 JEMISS 教育メディア
教育工学実習

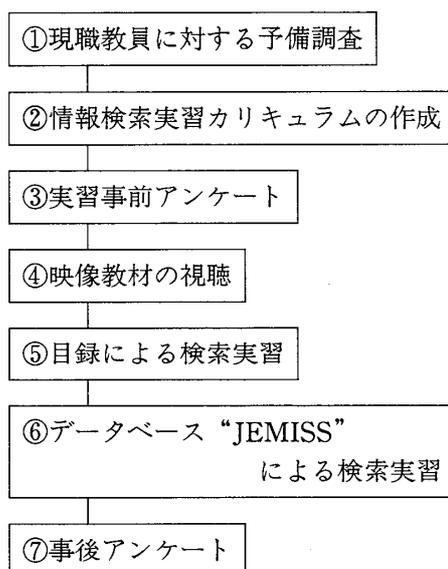
はじめに

放送教育開発センターでは、映像音響資料データベースシステムを開発中である。このデータベースの開発の一環としてわが国で公刊された映像資料(16ミリ映画、ビデオ教材、スライドなど)の所在情報のデータベース“JEMISS”を構築し、現在、大阪大学、上越教

育大学、鳴門教育大学、横浜国立大学、名古屋市立大学、東海大学などに提供し、さらに、平成2年7月から学術情報ネットワークを通じて全国の大学・研究機関に向けてサービスを開始する。本研究ではそれに先駆けて、本データベースの利用が多く見込まれる教育系大学の情報教育への適用について検討を加えたものである。

さらに、教育職員審議会の答申によって「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」が新設されることになった。「教育の方法及び技術」の内容として、授業の設計、メディア、情報機器（コンピュータなど）の活用があげられているが、このなかで情報教育の一環として適用できる情報検索実習のカリキュラムを提案しその有用性を確かめた。

本研究は概略、次の内容で構成されている。



1. 映像教材情報データベース“JEMISS”について

映像教材情報データベース“JEMISS”は、わが国で製作・公表された映像教材の所在情報である。映像教材の製作会社の団体である(社)映像文化製作者連盟および(財)日本視聴覚教材センターの協力により、データベースには過去25年間に製作された映像教材を網羅している。このデータベースの構造は表1に示すように、タイトル、用途、対象、キーワードなど18項目からなっており、製作会社の住所や電話番号も含まれているので所在情報としては十分な内容と思われる。

その入力済みデータの内訳は、表2に示すように14,640件のデータ（当時）が収められている。（1990年7月末には約20,000件に増加）

この内訳によると、分野別では技術、自然科学、社会科学、産業が多く、文学系統は少ない（哲学は分類上学校教育の道徳が含まれる）。また、対象別では学校教育が4,608件、社会教育・専門教育が10,032件である。

今回の情報検索実習では、複合検索ができないなど種々の制約はあるものの、実習室の都合でデータベースをパーソナルコンピュータに移植して用いることにした。検索はメニュー選択方式で初期画面で① NDC 検索②用途（科目）検索③対象検索④キーワード検索

表1 データベース JEMISS の構造

番号	フィールド	形式	幅
1	資料コード	数字型	5
2	タイトル	文字型	80
3	用途 1	文字型	18
4	用途 2	文字型	18
5	対象 1	文字型	14
6	対象 2	文字型	14
7	種別	文字型	30
8	NDCコード	文字型	3
9	NDC	文字型	40
10	時間	文字型	3
11	制作年	文字型	2
12	選賞	文字型	26
13	キーワード	文字型	99
14	制作者コード	文字型	40
15	郵便番号	文字型	12
16	住所	文字型	70
17	電話番号	文字型	24
18	登録番号	文字型	5

表2 映像教材情報データベース JEMISS の分野・対象別登録数

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	文学	言語	合計
学校教育	14	55	467	440	1,618	640	508	550	40	276	4,608
社会教育 専門教育	104	179	639	2581	1,194	2,935	1,115	709	57	519	10,032
合計	118	234	1,106	3,021	2,812	3,575	1,623	1,259	97	795	14,640

の何れかを選択し、以下、階層的にメニューを選択することによって検索が実行できるようになっている。

2. 予備調査

予備調査は、現職教育教師（名古屋市視聴覚研修受講者）と上越教育大学大学院学生（現職教員であるが都道府県から派遣）を対象にして、日常の教育活動におけるメディアに関する情報の入手方法やデータベースの利用の現状について調査した。また、上越教育大学大学院生に対しては、情報検索実習の試行実験を行い、実習カリキュラム作成の参考にした。

次に、この調査に基づいて情報検索実習カリキュラムを作成した。

「教育の方法及び技術」の目的を達成するためには

- ①データベースで得られる情報が教育活動に役立つ。
- ②データベースが教材として有効な機能を持つ。

ことが必要である。

そこで、実習に先立って検索の対象となる映像教材についての関心を高めるために、ワークシートによる解説や教材の視聴を盛り込むことにした。また、検索実習では、データベースによる検索と目録による検索の両方を体験してその損失を把握できるような仕組みにした。

実習は教育学部2年の学生200名を対象にして3学期の教育工学実習に組み込まれ、時間は2コマが当てられている。

3. 予備調査の結果

調査対象者は、現場教師である名古屋市の視聴覚研修講座の参加者(以下名古屋と称す。)47名、上越教育大学大学院生(以下上越と称す。)15名である。以下、その結果の概要を述べる。

(1) 日常教師が活用しているメディア

名古屋、上越両者の50%以上の教師が指導書、図書、テレビ番組、雑誌を利用している。以下、新聞、文献、指導案とつづき、印刷系のメディアが多く活用されていることがわかる。

対象別に詳しくみると、上越の方が全体的に利用率が高い傾向にあるが、これは大学院生のため日頃文献などによく目を通していることが要因となっているのであろう。一方、今後活用したいメディアでは、半数以上がビデオ教材、テレビ番組、教育映画をあげており映像メディア、特にビデオ教材を中心にパッケージ化された映像教材の要望が強いことがわかる。これは名古屋、上越ともほとんど同じ傾向をしめしているが、上越において教育映画、データベースの利用希望がやや高い。

(2) 映像教材利用や情報の入手方法

名古屋では「視聴覚教育センターから配布される映像教材目録を利用していますか」という質問項目に対して

- よく利用している 8.5%
- たまに利用している 40.4%

と応えている。

つぎに、「目録利用の問題点」は

- 全く問題がない 4.3%
- 不便さを感じている 47.8%

で“不便”は半数近くもあり、その内容は自由記述によると

- 新しい情報の入手が困難
- 内容による検索が困難

- 教科を越えた（教科をまたがる？）検索ができない
- 時間がかかる
- 検索できる教材数が少ない

などが挙げられていて、これらはすべてデータベースによる検索で解決できる事項であることは興味深い。

(3) 映像教材に関する知識及び利用状況

「教育映画を利用していますか」の質問項目に対して、名古屋では

- よく利用している 14.9%
 - 利用したことがある 38.3%
 - 利用したことがない 44.7%
- 年間平均利用回数は 2.7本

一方、上越では

- よく利用している 26.7%
 - 利用したことがある 46.7%
 - 利用したことがない 26.6%
- 年間平均利用回数は 4.5本

で、上越の方が利用が上回っているのは、上越教育大学の大学院生は、都道府県の教育委員会から派遣された現職教員が多く、教材の利用により積極的な集団であり、名古屋の場合はごく一般的な教員の集団とみられるためである。

(4) 教育映画の視聴の意義

「教育映画など映像教材の視聴は教師としての素養をたかめるのに役立つと思いますか」

の質問項目に対して

名古屋では

- 非常に役立つ 21.3%
- まあ役立つ 57.5%
- どちらともいえない 21.3%

一方、上越では

- 非常に役立つ 40%
- まあ役立つ 47%
- どちらともいえない 20%

また、「手軽に利用できる教材があれば授業に利用したいですか」にたいして

- 積極的に利用したい 20%
- 利用したい 60%
- どちらともいえない 13%

で授業への視聴覚教材の利用希望が80%を越えている。

(5) データベース利用への関心

「データベースを利用して情報検索をおこなったことがありますか」の質問項目に対して

名古屋では

- 利用したことが無い 95.7%

上越では

- 利用したことが無い 73.3%

であり、上越での利用率がやや高い。それにしてもデータベースの利用が現状ではあまりに低いと云わざるを得ない。

つぎに、「身近に手軽に利用できるデータベースがあれば利用するか」の質問項目に対して

名古屋では

- 積極的に利用したい 25.5%
- 利用してもよい 40.4%

で、両方をあわせると65%に達し、教育現場でのデータベース供給の要望がかなり強いものであることをうかがわせている。

一方、上越では

- 積極的に利用したい 60.0%
- 利用してもよい 40.0%

で、あわせると100%全員がデータベースによる検索システムの提供を望んでいることが判った。

つぎに、「データベースによる情報検索にはどのような不便な点がありますか」という問いに対して

名古屋では

- 身近に利用できるデータベースが無い 21.3%
- パソコンの使い方がわからないと利用できない 17.0%
- 情報検索の操作が複雑 6.0%
- 目録のように持ち歩けない 4.0%

で教育現場へのデータベースの供給体制やパソコン研修の必要性がクローズアップされてくる。

さらに、「データベースによる検索にどのような利点があると思いますか」の問いに対して名古屋では

- 目的の情報を得るのに時間がかからない 29.8%
- 過去から現在までのすべての情報を求められる 27.7%

などデータベースによる検索の利点をよくとらえている。

(6) 利用したいデータベースの種類と利用目的

「どのようなデータベースがあったら利用したいですか」の質問項目にたいして

- 図書データベース 40%
- 文献データベース 53%
- 教材データベース 67%
- 自作データベース 27%

ここでは教材データベースに対する要望がいちばん多いのは注目に値する。

つぎに、「それをどの様に役立てたいですか」の質問項目に対して

- 授業に利用する 67%
- 授業研究のため 60%
- 教師としての素養を高めるため 26%
- 学校行事に利用する 7%

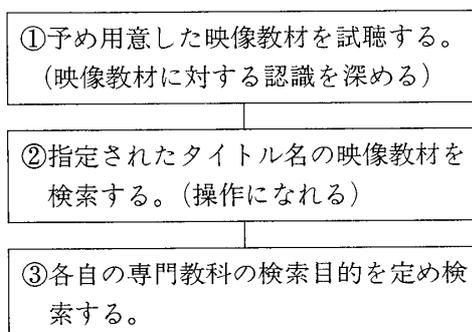
となっており、やはり授業への利用のための圧倒的に多い。

(7) 検索実習の試行

放送教育開発センターが提供する映像教材データベース“JEMISS”を、学部学生の情報検索実習として利用するための妥当性を検討するために、上越教育大学大学院生15名を被験者として試行実験を実施した。

検索システムは、40MBのハードディスク付きのパソコンにJEMISSを移植し、検索操作はメニュー方式で、先に述べたように用途(科目)検索、対象(学年)検索、NDC検索、キーワード検索が可能である。

試行実習は、次の手順で実施した。



以上の検索実習後のアンケート調査の結果は、次の通りである。

「JEMISSによる教材検索は役立つか」の質問項目に対して

- 非常に役立つ 42.9%
- まあ役立つ 42.9%
- あまり役立たない 7.1%

であり、85%が役立つと応えている。

さらに、「JEMISSが身近にあったら利用したいですか」の問いに対して、

- 積極的に利用したい 57.1%
- 利用してもよい 28.8%

であり、あわせると85%以上が利用したいと答えているので、JEMISSを教育情報検索実習の題材として利用する意義は認められる。

また、このような実習の内容・方法に対しての質問「今回の情報検索実習は役立ちましたか」について

- 非常に役立つ 28.6%
- まあ役立つ 50.0%

であり、「JEMISS をどのように利用したいですか」の質問項目に対して

- 授業に使用する教材を捜す 64.3%
- 教材情報の収集活動を助ける 42.9%
- 新しい視点で素材・教材を分析する助けとなる 35.7%
- 授業を構成する上で参考になる 14.2%

となっている。

(8) 検索実習における事前事後の比較

「教師としての素養を高めるのにどの様なものを利用したいですか」の質問項目にたいして

- 教育映画 13.3%から71.4%に上昇
- データベース 66.7%から85.7%に上昇

「手軽に利用できる映像教材があれば利用したいですか」の質問に対して

- 積極的に利用したい 20%から64.3%に上昇

いずれも大幅に上昇しており、情報の入手手段としてのデータベースの利用だけでなく映像教材利用についての関心が高まっているのは、「教育の方法及び技術」の教育方法として極めて重要な結果であると結論づけられる。

以上の試行実験結果をまとめると

- ① 事前の教材の視聴は、映像教材への認識を深める。
- ② JEMISS を用いた情報検索実習は、データベースによる検索の特徴を理解させることができる。
- ③ 教育活動における教材情報の入手手段の一つとして JEMISS は有効である。

そこで、この結果をもとに実際の学部における教育カリキュラムの計画を練ることにした。

4. 教育工学実習教材における情報検索実習カリキュラム

情報検索の試行実験によってその実習の効果が認められたので、上越教育大学教育学部2年3学期の教育工学実習に、JEMISS による情報検索を組み込むための授業計画を作成した。

対象学生は200名で、教育工学実習は全体で8テーマを毎週ラウンドテーブル方式で各テーマ(OHP、板書、ワープロなど)を消化して行くものである。したがって、情報検索実習は、当日割り当てられた学生12~13名のグループが同時に実習を行うことになる。したがって、時間的には2コマ(3時間)の時間帯1回ですべて終了する内容にしなければならない。また、12~13名が同時に実習するのでコンピュータなどの機器類の準備が必要となる。この実習では1セットのパソコン(試行実習と同じ構成で4台準備した)に3名の学生を割り当てる方法をとったが、理想を云えば1名1セットを準備したほうがよいと考えられる。

(1) 実習の目的・内容

①映像教材に対する認識を深める

- あらかじめ用意した教材を視聴する。
- 手引書によって視聴覚センター、データベース、映像教材の現状を学ぶ。
- 目録により視聴した教材を捜す

②機器の操作に慣れ、情報検索ができる。

- 検索プログラムの構成を学ぶ
- ①の教材視聴時にキーワードを挙げておき、これにより検索を行う。(操作になれる)
- あたえられた題名の教材を検索する。(同様な教材が多数存在し網羅的な検索ができることを知る)
- あたえられたキーワードをもつ教材を検索する。(科目や領域、学年を越えた検索ができる)
- あらかじめ文章で与えられた内容で検索する。(自分でキーワード設定や項目指定など必要な設定の入力ができ、内容による検索が容易であることを知る)
- 各自の興味のある教材を検索する。(前項の学習内容を深め検索項目の組合せによって目的とする教材に到達できる)

③目録による検索とデータベースによる検索とを比較し、それぞれの特徴をまとめる。

(2) 実習の方法

実習を円滑にするためにワークシートを作成し、それに従って実習をおこなうことにした。この際、注意しなければならないのは、先に述べたように実習がラウンドテーブル方式のため学生間で実習の課題が伝わり、予め設定した実習の目的が達成できなくなる恐れがあるために、ワークシートの作り方は極力、グループごとに、あるいは個人毎に課題が異なるように配慮した。

付録にワークシートの内容を示すが、実習の状況を観察すると、割当時間内の2～3時間で終了するグループが大部分であるが、いくつかのグループは5時間以上費やしているものもあり、やや課題が多すぎたかもしれない。また、パソコンを用いているために検索の手順に制限があり、初心者には適しているが、より複雑な検索をおこなうには汎用コンピュータによるオンライン検索も検討する必要があるだろう。

5. アンケート調査の結果

ここでは、予備調査で現職教員に実施した項目と同様なアンケートを試み実習の効果を確かめた。

5.1 実習前アンケート (回答者171名)

事前アンケートは、実習者の映像教材に対する認識や日常的に利用している情報源データベースの利用経験について質問項目を設定している。これは、実習者の前提知識や情報入手の現状を知り実習後のアンケートと比較検討するためのものである。

(1) 教育(学習)活動のための情報源

「教員としての素養を高めるために利用しているもの」の質問項目にたいして調査対

象者の50%以上が図書、テレビ番組、雑誌、新聞、を挙げている。現職教員との違いは指導書、指導案の利用がやや少ない。(実際の授業を担当していないので当然の結果といえる)がほぼ同じ傾向を示している。

一方、「今後利用したいメディア」では指導案、ビデオ教材、教育映画、授業ビデオ(授業の状況を取録したもの)となっており、相対的な比率は低いものの現職教員と似た傾向を示している。データベースに関しては、利用しているは0%で、利用したいは9.9%であり、現職教員にくらべて大幅に意識の見劣りがする。このことは学部学生に対するデータベースによる情報検索実習の必要性を示しているといえる。

(2) 情報検索の経験と利用希望

「データベースを利用して情報検索をおこなったことがありますか」の質問項目に対して

- 良く利用している 0 %
- 利用したことがある 2.4%
- 利用したことがない 97.6%

であり、名古屋の平均的な教員よりも経験が少ないのは、情報環境の比較的整った環境にある大学生としては意外な結果といえる。また、「もし手軽に利用できるデータベースがあれば利用したいですか」の質問に対して

- 積極的に利用したい 11.1%
- 利用してもよい 41.5%
- どちらともいえない 31.6%
- あまり利用したくない 3.5%
- 無回答 12.3%

と答えており「積極的に利用したい」が少ないことや「どちらでもない」が多いことから、情報検索利用の意識が現職教員に比べて低いことをうかがわせる結果が得られた。

(3) 映像教材について

「毎年多くの映像教材が製作・市販されているのを知っていますか」の質問に対して

- 知っている 31.6%
- 知らない 68.4%

「映像教材を教育実習に利用しますか」の質問項目に対して

- 利用する 55.0%
- 利用しない 43.3%

であった。

5.2 実習後のアンケート結果 (回答者171名)

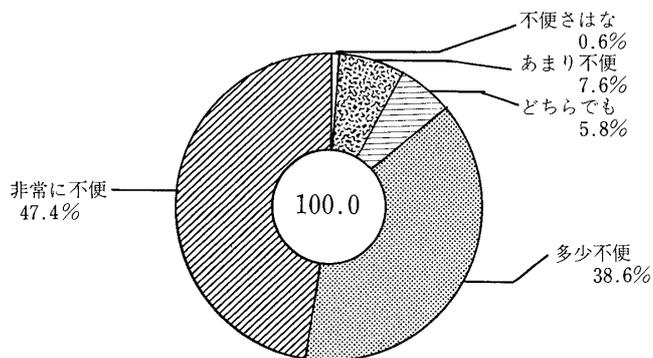
事後アンケートは大別(1)情報検索実習事項(2)データベース(2)映像教材の利用(3)今後利用したい情報源について質問事項を構成した。

(1) データベース JEMISS は役立つか

情報検索実習では、同じ検索目的で目録とデータベースによる検索をおこない、その違いを経験できる仕組みになっている。

まず、目録による検索では「自分の利用したい教材を探す場合不便さを感じましたか」の質問項目に対して（図1）

- 不便さを全く感じない 0.6%
- それほど不便とは思わない 7.6%
- どちらともいえない 5.8%
- 多少不便と思う 38.6%
- 非常に不便 47.4%

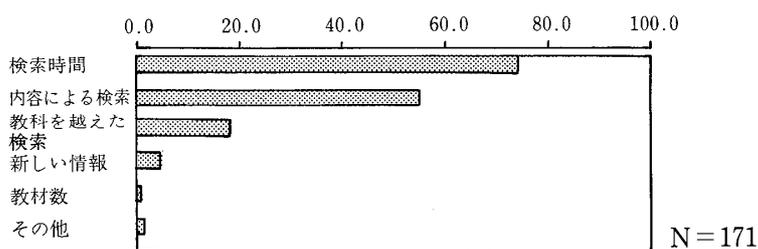


N = 171

図1 目録による教材検索は不便か

目録検索に「不便さを感じた理由」については（図2）

- 時間がかかる 74.3%
- 内容による検索が難しい 55.0%
- 教科を越えた検索が難しい 18.1%
- 新しい情報を求めにくい 4.7%
- 検索できる教材数が少ない 0.1%



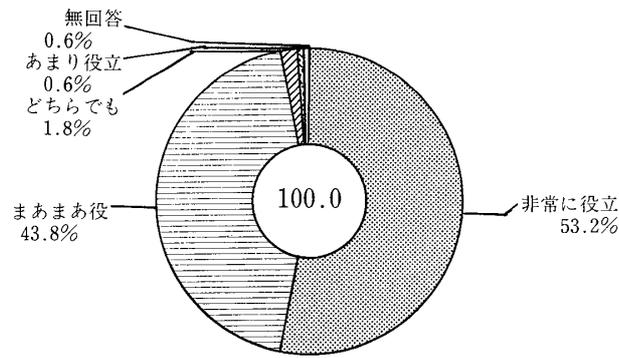
N = 171

図2 目録の不便な点

このようにデータベースによる検索と比較した目録検索の問題点を正しく把握している。

次に、データベース“JEMISS”による検索についての質問項目をみると「今回使用したデータベースは教材検索に役立ちましたか」では（図3）

- 非常に役立つ 53.2%



N = 171

図3 JEMISSは役に立ちましたか

- まあ役立つ 43.8%
- どちらともいえない 1.8%
- あまり役立つ 0.6%
- 役に立たない 0.0%

で、教材検索におけるデータベース“JEMISS”の有用性を認めている。これを現職教員（院生）の調査結果と比較すると“どちらともいえない”“役に立たない”の回答に差があることが判る。これは学部学生が実際の授業経験なしで回答しているのに対して、現職教員の場合には、自分の授業を想定して判断していることによると思われる。

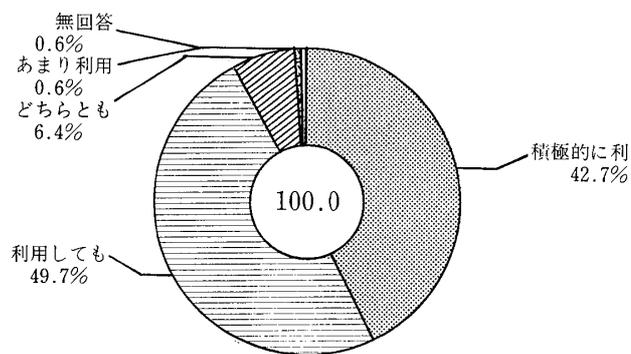
しかし、両者とも圧倒的に多数が“JEMISS”の有用性を認めている。また、「データベースによる検索にどのような不便があると思いますか」に対して

- 身近に利用できるデータベースがない 45.0%
- 目録のように持ち歩けない 51.5%
- パソコンの使い方が判らないと利用できない 59.6%
- 情報検索の操作が複雑である 4.1%

であり、この回答には種々の問題を含んでいるように思われる。“パソコンの使い方……”では、“コンピュータに慣れ親しむ”のいわゆるコンピュータリテラシー教育の必要性を感じるし、“身近に利用できるデータベース……”では、現在、意欲さえあれば各種のパソコン通信や大学の情報処理センサ事などから学術情報センターなどのデータベースが利用可能である。このようなことから学部学生に対するできるだけ早期の情報教育の必要性を痛感する結果である。また、“情報検索の操作……”では、実習に用いた検索システムがメニュー選択方式を採用しているために操作の複雑さを感じていないようであり、初心者の情報検索実習システムとしては成功したといえる。

「このデータベースが身近にあれば利用したいか」の質問項目に対して、(図4)

- 積極的に利用したい 42.7%
- 利用してもよい 49.7%
- どちらともいえない 6.4%
- あまり利用したくない 0.6%



N = 171

図4 今後も JEMISS を利用したいですか

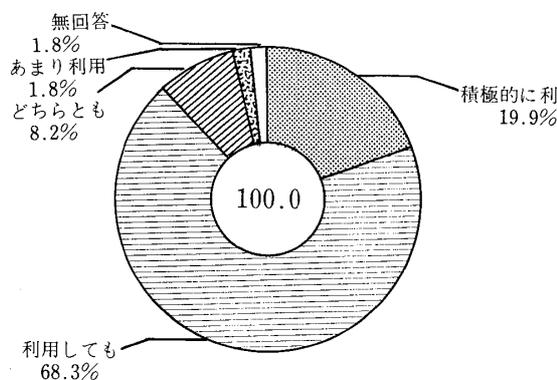
- 全く利用したくない 0.0%
- その他 0.6%

で“積極的に利用……”、“利用しても……”を合わせるとじつに92%が、JEMISS の利用を望んでいる。これは実習直後のアンケートである事情を割り引いても相当の数と云わざるを得ない。また、現職教員（院生）との比較では、“積極的に利用したい”が学部学生において低率であるが、前にも述べたように、現職教員（院生）は特に意識の高い集団であること、学部学生はまだ授業経験がないので具体的な教材の利用場面が想定できない事情によるものと思われる。

次に、一般的に「身近に手軽に利用できるデータベースがあれば利用しますか」の質問に対しては（図5）

- 積極的に利用したい 19.9%
- 利用してもよい 68.3%
- どちらともいえない 8.2%
- あまり利用したいと思はない 1.8%
- 全く利用したくない 0.0%

で、JEMISS と比較すると、“積極的利用……”に大きな差がみられる。これは、情報



N = 171

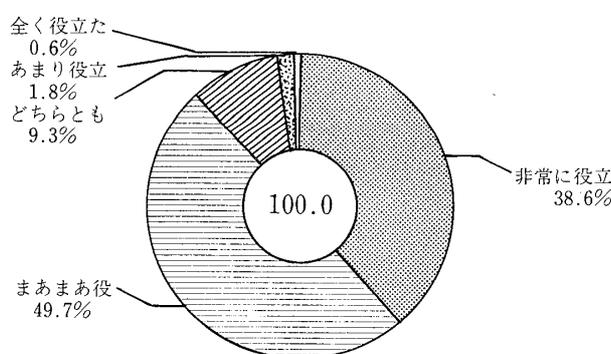
図5

検索の経験が少ないために他のデータベースの具体的なイメージが湧かないと見られる。何れにしても肯定的意見が圧倒的に多い。

(2) 情報検索実習は教師としての素養向上に役立つか

今回の情報検索実習は、単に情報検索を操作的に行うのではなく、映像資料を視聴したり、ワークシートによって視聴覚センター・ライブラリーやデータベースについての知識を総合的に学べるように計画されている。そこで、「今回の映像教材情報データベースの検索実習は教師としての素養の向上に役立ちましたか」の質問項目に対して(図6)

●非常に役立つ	38.6%
●まあ役立つ	49.7%
●どちらともいえない	9.3%
●あまり役立たない	1.8%
●全く役立たない	0.6%



N = 171

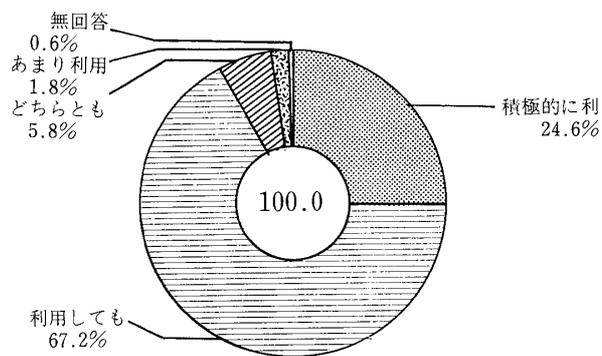
図6 映像教材情報検索実習は役立ったか

で肯定的な意見が大部分である。これを現職教員と比較すると、学部学生では積極的肯定意見がより多く見られ、否定的な答えはより少ない。これは学部学生が視聴覚教材に接触する機会が少なく、映像教材の視聴やワークシートによる学習の効果に現れていると考えられる。(自由記述にこのような意見があった)

(3) 映像教材の利用について

本実習項目には、映像教材の視聴やワークシートの学習を通じて映像教材情報だけでなく、映像教材そのものについての認識を深める狙いがあることは再三述べた通りである。ここでは、映像教材の利用についての質問項目について検討する。「身近に利用できる映像教材があれば利用しますか」の質問項目に対して(図7)

●積極的に利用	24.6%
●利用してもよい	67.2%
●どちらともいえない	5.8%
●あまり利用したくない	1.8%



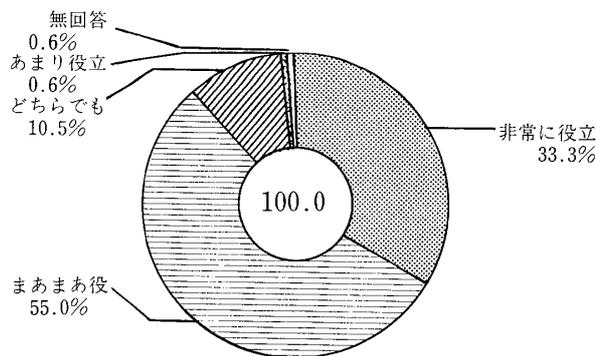
N = 171

図7 映像教材を利用したいですか

- 全く利用したくない 0.0%

さらに、「映像教材の視聴はあなたの教師としての活動に役立つと思いますか」に対しては、(図8)

- 非常に役立つ 33.3%
- まあ役立つ 55.0%
- どちらともいえない 10.5%
- あまり役立たない 0.6%
- 全く役立たない 0.0%



N = 171

図8 映像教材の視聴は役立つか

であり、前項と合わせて考察すると全体的には肯定的であるが“積極的に利用……”と“非常に役立つ……”について後者がやや多いのは、利用場面よりも教師としての素養を身に付けるために映像教材を視聴する態度が見られる。このことは、検索システムによって映像教材の所在情報は得られたとしても、実際に映像教材が入手でき視聴できる環境を整える必要がある。また、このような実習においても事後の指導として近隣の視聴覚センター・ライブラリーの利用まで含める必要があると考えられる。

(4) 今後利用したい教育情報源

この項目に関しては、事前事後の比較で明確に差がある項目に着目する(図9参照)。

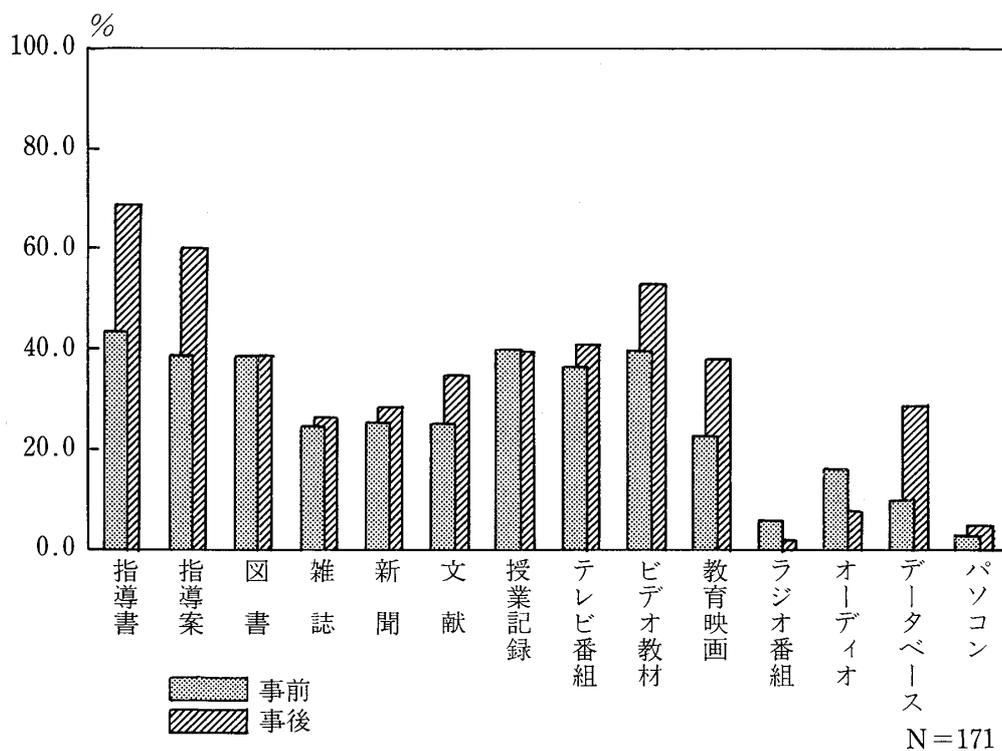


図9 今後利用したいメディア

まず、指導書、指導案、ビデオ教材、教育映画、データベース、授業ビデオが伸びており、相対的に図書、新聞などが後退しているのが目だつ。特に映像教材とデータベースの伸びが著しいのは、教材情報検索実習のカリキュラムが狙い通りに作用しているといえる。また、この調査項目において現職教員と比較して学部学生の事前調査では、現職教員との差が目だったのに対して、事後調査では現職教員の反応に近付いており興味のある結果である。

あとがき

放送教育開発センターは、研究機関であると同時に高等教育を対象とした制作部門をもつ全国的規模で唯一の映像資料の供給機関である。映像資料の流通は“もの”の流通と“情報”の流通の双方が円滑に行われてこそ拡大するのであって、情報の流通の面ではデータベースのはたす役割は重要である。また、映像資料の教育利用の認識を高めるのは、映像資料への接触の機会を増加することであり、これは“もの”の流通の仕組みを見直さなければならない。本センターは大学の共同利用機関として、この問題に真剣に取り組まなければならない時期にきていると思われる。

学生番号 _____ 氏名 _____ グループ番号 _____

1. まずはじめに、付録1に目を通して下さい。
2. 下に挙げた映像教材について、検索してみましょう。

- ①ものが燃えるときなにがおこるか
- ②目のしくみ
- ③動きまわる粒—液体と気体の分子—
- ④虫の冬ごし
- ⑤ひなにとって親とは何か—Imprinting)
- ⑥アブラムシの生態
- ⑦彫塑の表現
- ⑧ミミズ—体のつくりと生活—

(1) 上記の中から●のついている映像教材を視聴しましょう。視聴している間に、重要と思われる内容を表すキーワードを、次の枠の中に書きましょう。

(2) (1)で視聴した映像教材を、目録を用いて検索し、入手先（会社名、住所、電話番号など）を調べて記録しましょう。また、どういう方法（手順）で、目的の映像教材を探し当てたかを記録して下さい。

入手先 会社名
住所
電話番号

検索の方法（手順）

(3) (1)で視聴した映像教材を、今度はデータベース(JEMISS)を用いて検索し、どういう

方法（手順）で探し当てたかを記録して下さい。（付録2参照）

(4) 残りの7本の映像教材を、目録を用いて検索し、それぞれどのような方法（手順）で探し当てたかを記入して下さい。

① ⑤

② ⑥

③ ⑦

④ ⑧

(5) 残りの7本の映像教材を、データベースを用いて検索し、それぞれどのような方法（手順）で探し当てたかを記入して下さい。

① ⑤

② ⑥

③ ⑦

④ ⑧

3. 下に挙げたキーワードを内容とした映像教材を検索します。

(1) ①～③にあげたキーワードを内容とする映像教材情報を、目録を用いて検索し、本数、教材の番号、タイトル、検索の方法を記録して下さい。

①モンシロチョウ 本数 []本

②ニッコウ(日光) 本数 []本

③イギリス 本数 []本

(2) 同様のキーワードを内容とする映像教材を、データベースを用いて検索し、本数、番号、タイトルを記録して下さい。

①モンシロチョウ 本数 []本

②ニッコウ(日光) 本数 []本

③イギリス 本数 []本

(3) 各自の出身県をキーワードとする映像教材情報を、データベースを用いて検索し、県名、本数、番号、タイトルを分野別に記録して下さい。

(例)ニイガタ(ケン)

4. 下に記述された内容の映像教材を検索したいと思います。各自の方法で最もこの内容にふさわしいと思われる教材を探して、番号、タイトル、検索の方法を記入して下さい。

内容

行動に積極性をもつ一人の幼児を中心としたグループは、いつも独自の行動を取り他のグループと協調性をもたなかったが、教師のアイデアで次第に他のグループの遊びに加わりクラス全体が協力し合い遊びを創りあげていく姿を克明にとらえている。

番号 [] タイトル []

検索の方法

5. データベースを用いて、自分の興味のある教育映画をさらに5本検索してみましょう。その結果と、どういう方法(手順)で、目的の教育映画を捜し当てたかを記録して下さい。

また、なぜその映像教材を検索したのですか。共通の考えがあれば、その考えを書いて下さい。また、それぞれの教材をなぜ選んだのかその理由も書いて下さい。

6. 一般に、教材に関する情報を検索する場合に、目録による方法とデータベースによる方法の違いはどこにあるとおもいますか。それぞれの利点、欠点を書いて下さい。

データベース

利点

欠点

目録 利点

欠点

-
- (1) 研究開発部教授)
 - (2) 研究開発部助教授)
 - (3) 上越教育大学講師)